

日本語技法 NO.1

本講義の進め方 :

- 1-7回 : (土基善文)
 - 数学における基本的な日本語の技術を身につける。
 - 毎回小テスト(演習)を行なう。(出席点も兼ねる。)
- 8-15回: 情報コースの教員の先生方による各論。

1-7回までの基本課題 :

主に数学のかかわる場面において、(講義やレポート、試験 etc.)

- 言いたいことをうまく伝えること。
- 相手のいうことを理解できること。
- 論理的な話の展開が素早くできるようになること。

例えば: \mathbb{R} 上で定義された関数 f が「点 a で連続」ということの定義

() $\forall \epsilon > 0$ ($\exists \delta > 0$ such that $(|x-a| < \delta \implies |f(x)-f(a)| < \epsilon)$)
について、

- () の内容を日本語でうまく表現できるか。
- それに相当する文章/考えを聞いたり思い付いたりしたときに、上の () が思い浮かぶか?
- 「背理法で、() が成り立たなかったとする...」と言われたときに、() の否定にあたる文章がすらすらでてくるか?

以下は今日のネタ

- 1.1. 略語をつかわない。
- 1.2. すべての文に主語をつける。
- 1.3. 長い文は幾つかに切って曖昧さを減らす。
- 1.4. 小テスト。

問題 1.1. () 式をできるだけわかりやすい日本語に直してみよ。